

広報

ぐんま育英

発行
学校法人 群馬育英学園
広報委員会

ご挨拶



群馬育英学園

理事長 中村義寛

2022年、令和4年の新年を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

今年の干支は寅(とら)、新年早々の1月2日上州のタイガー軍団、前橋育英高校サッカー部は1・2回戦を快勝、3回戦、鹿島学園に勝利し幸先のよい、年初めのスタートを切りました。続く、準々決勝、熊本代表、大津高校に0・1で惜敗、4年ぶりの準決勝、決勝には進めませんでした。が、1・2年生たちはこの悔しさをバネにまた、新しいチームで全国制覇を目指して頑張ってくれ、と期待しています。また、前橋

育英高校、女子サッカー部は3日の初戦、この大会準優勝の日ノ本学園に0・1と善戦しました。昨年暮れに行われた全国高校バスケットボール選手権(ウィンターカップ)では男子バスケットボール部が1・2回戦を勝ち抜き3回戦、福島東陵高校に接戦で敗れましたが、今年度は関東大会では優勝し、今年度の2回戦は前年度準優勝の東山を破るなど、すばらしい活躍を見せてくれました。

今回の前橋育英高校サッカー部、男子・女子全国選手権大会出場並びに男子バスケットボール部全国選手権大会出場に係る支援・募金に際しては、学園協力会・高校後援会・保護者会・同窓会・退職者の会・教職員等々ご協力頂きました多くの皆様に対し、心より御礼申し上げます。開学4年目の育英大学においては第98回箱根駅伝に、育英大学陸上部(駅伝)3年生の諸星颯太選手(前橋育英高校出身)が関東学連

代表として10区を走り21名中5位のタイムで好走しました。また、昨年10月にノルウェーで行われたレスリング世界選手権では、女子レスリング部2年生の桜井つぐみ選手が55キロ級で金メダルを獲得、続く12月の日本選手権ではオリンピック階級の57キロ級で優勝を果たしました。今年も陸上部、男女レスリング部ともに大いに活躍が期待されます。

1963年、昭和38年に開校の前橋育英高等学校はこの4月で60年目を迎えます。また、この4月から50年間設置された保育科が廃止され、普通科の5類、保育コースとして生まれ変わります。保育コースは、育英短期大学保育学科への進学、或いは育英大学教育学部児童教育専攻への進学等、幼児教育における選択肢を広げる目的で開設されます。一昨年に発生した新型コロナウイルスの感染は、次々に変異を続け昨年暮れから今年に入りオミクロン株が勢いを増し、感染拡大が続いています。

このようなコロナ禍にあっても、育英大学、育英短期大学、前橋育英高等学校はより一層の改革を行い、系列である育英メデイカル専門学校、大根根育英幼稚園と強い連携をとり、学習環境や教育内容を充実させ地域社会、全国から評価される学園を目指してまいります。

今後とも関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。新型コロナウイルスが収束し、今年1年が皆様にとつて良い年になりますようにお祈りし、年頭に当たつてのご挨拶と致します。



2018年4月開学の育英大学が2022年3月をもって完成年度を迎えます。



群馬育英学園協力会役員企業である株式会社関電工群馬支店様より育英大学・育英短期大学へ絵本を寄贈していただきました。



謹賀新年

役員・評議員

学園長※

理事長 中村 義寛

理事 中村 義寛

理事 金子 雅人

理事 佐伯 昭一

理事 岩川 正典

理事 山田 清志

理事 小野澤 正喜

理事 福島 英人

理事 前田 宏

理事 富岡 政明

理事 新井 保幸

理事 久住 洋

理事 新井 信雄

理事 根岸 智代

理事 根岸 映一

理事 中島 篤

理事 北條 哲成

理事 遠山 浩二

理事 石井 晃英

理事 大塚 智枝子

理事 石井 昌代

理事 高月 有記恵

理事 亦野 崇天

理事 北原 崇天

理事 伊藤 憲康

理事 平澤 精人

理事 高月 広喜

理事 松本 正雄

理事 柳川 尚

理事 内田 美磨

理事 小室 基香

理事 中島 弘道

理事 戸澤 勲

理事 中澤 朋弘

理事 桂 健太郎

理事 中井 俊二

理事 高津 秀一

理事 青木 茂人

理事 上原 敏広

理事 川端 誠

理事 塚田 恵

理事 高橋 謙

理事 高橋 謙

理事 高橋 謙

理事 高橋 謙

理事 高橋 謙

理事 高橋 謙

理事 高橋 謙

理事 高橋 謙

理事 高橋 謙

理事 高橋 謙

理事 高橋 謙

理事 高橋 謙

理事 高橋 謙

理事 高橋 謙

※は評議員兼任

令和2年度 決算報告

学校法人 群馬育英学園

学園の令和2年度決算は、本年度5月28日(金)に開催された理事会において承認可決され、続いて開催された評議員会に報告されました。令和2年度決算は下記のとおりです。

事業活動収支計算書

令和2年4月1日より
令和3年3月31日まで

(単位:円)

教育活動収支 事業活動収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異(▲)
学生生徒等納付金	1,665,710,000	1,658,989,870	6,720,130
手数料	61,342,000	58,226,609	3,115,391
寄付金	19,000,000	38,028,052	▲19,028,052
経常費等補助金	711,970,000	700,826,842	11,143,158
付随事業収入	31,646,000	28,197,000	3,449,000
雑収入	90,177,000	122,178,228	▲32,001,228
教育活動収入計	2,579,845,000	2,606,446,601	▲26,601,601

教育活動収支 事業活動支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異(▲)
人件費	1,634,633,000	1,702,932,851	▲68,299,851
教育研究経費	797,362,000	782,686,547	14,675,453
管理経費	148,517,000	175,419,471	▲26,902,471
徴収不能額等	0	536,610	▲536,610
教育活動支出計	2,580,512,000	2,661,575,479	▲81,063,479
教育活動収支差額	▲667,000	▲55,128,878	54,461,878

教育活動外収支 事業活動収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異(▲)
受取利息・配当金	148,000	115,085	32,915
教育活動外収入計	148,000	115,085	32,915

教育活動外収支 事業活動支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異(▲)
借入金等利息	1,249,000	1,039,724	209,276
教育活動外支出計	1,249,000	1,039,724	209,276
教育活動外収支差額	▲1,101,000	▲924,639	▲176,361
経常収支差額	▲1,768,000	▲56,053,517	54,285,517

特別収支 事業活動収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異(▲)
資産売却収入	0	0	0
その他の特別収入	13,532,000	29,194,282	▲15,662,282
特別収入計	13,532,000	29,194,282	▲15,662,282

特別収支 事業活動支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異(▲)
資産処分差額	0	6,848,887	▲6,848,887
その他の特別支出	0	20,000	▲20,000
特別支出計	0	6,868,887	▲6,868,887
特別収支差額	13,532,000	22,325,395	▲8,793,395

科 目	予 算	決 算	差 異(▲)
	0		
[予備費]	18,000,000		18,000,000
基本金組入前当年度収支差額	▲6,236,000	▲33,728,122	27,492,122
基本金組入額合計	▲286,946,000	▲135,056,002	▲151,889,998
当年度収支差額	▲293,182,000	▲168,784,124	▲124,397,876
前年度繰越収支差額	▲4,315,611,508	▲4,315,611,508	0
翌年度繰越収支差額	▲4,608,793,508	▲4,484,395,632	▲124,397,876

(参考)

事業活動収入計	2,593,525,000	2,635,755,968	▲42,230,968
事業活動支出計	2,599,761,000	2,669,484,090	▲69,723,090

資金収支計算書

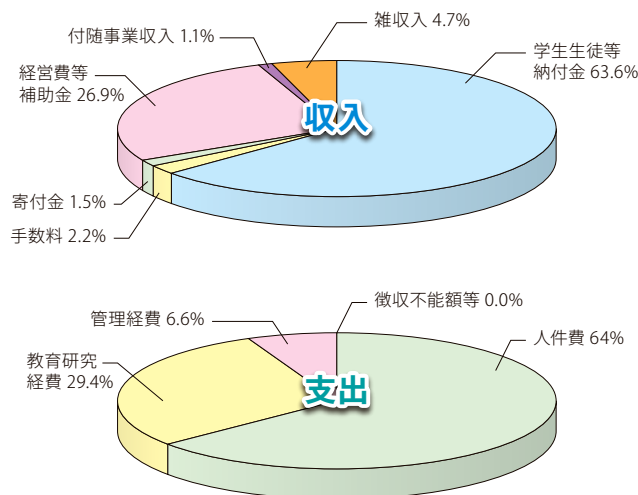
令和2年4月1日より
令和3年3月31日まで

(単位:円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異(▲)
学生生徒等納付金収入	1,665,710,000	1,658,989,870	6,720,130
手数料収入	61,342,000	58,226,609	3,115,391
寄付金収入	19,000,000	43,581,630	▲24,581,630
補助金収入	711,970,000	712,131,842	▲161,842
資産売却収入	0	250,390	▲250,390
付随事業・収益事業収入	31,646,000	28,197,000	3,449,000
受取利息・配当金収入	148,000	115,085	32,915
雑収入	90,177,000	122,178,228	▲32,001,228
借入金等収入	195,426,000	205,000,000	▲9,574,000
前受金収入	155,800,000	152,110,000	3,690,000
その他の収入	1,128,270,000	1,442,919,357	▲314,649,357
資金収入調整勘定	▲149,080,000	▲253,036,994	103,956,994
前年度繰越支払資金	1,122,178,533	1,122,178,533	0
収入の部合計	5,032,587,533	5,292,841,550	▲260,254,017

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異(▲)
人件費支出	1,634,633,000	1,680,369,443	▲45,736,443
教育研究経費支出	599,578,000	570,397,265	29,180,735
管理経費支出	142,117,000	142,117,000	▲23,004,916
借入金等利息支出	1,249,000	1,039,724	209,276
借入金等返済支出	52,295,000	49,765,000	2,530,000
施設関係支出	272,320,000	310,611,800	▲38,291,800
設備関係支出	14,626,000	37,836,764	▲23,210,764
資産運用支出	0	29,646,399	▲29,646,399
その他の支出	1,189,670,000	1,363,247,033	▲173,577,033
予備費	18,000,000	0	18,000,000
資金支出調整勘定	▲25,180,000	▲11,526,795	▲13,653,205
翌年度繰越支払資金	1,133,279,533	1,096,333,001	36,946,532
支出の部合計	5,032,587,533	5,292,841,550	▲260,254,017

令和2年度 事業活動収支構成比率



《注記》

1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

- 徴収不能引当金
未収入金等の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能額を計上する事としている。
- 退職給与引当金
期末要支給額1,008,291,479円から公益財団法人群馬県私学振興会(退職団体)よりの要交付額940,390,601円を控除した67,900,878円全額計上している。

(2) その他の重要な会計方針

- 預り金その他経過項目に係る収支の表示方法
預り金については、総額表示している。
- 食堂その他教育活動に付随する活動に係る収支の表示方法
補助活動に係る収支については、総額表示している。

2. 重要な会計方針の変更等

該当なし

3. 減価償却額の累計額の合計額 4,954,827,417円

4. 徴収不能引当金の合計額 0円

5. 担保に供されている資産の種類および額

土 地	2,405,914,057円
建 物	2,552,030,179円

6. 翌会計年度以後の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額 334,766,196円

7. 当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策

第4基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 通常の賃貸借取引にかかる方法に準じた会計処理を行っている所有権移転外ファイナンス・リース取引

● 平成21年4月1日以降に開始したリース取引		
リース物件の種類	リース料総額	未経過リース料期末残高
教育研究機器備品	9,756,780円	5,535,462円
管理用機器備品	4,073,274円	1,137,402円

(2) 関連当事者との取引

関連当事者との取引の内容は、次のとおりである。

■ 属 性	役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社
■ 役員法人等の名称	上毛資源株式会社
■ 住 所	前橋市高井町
■ 資本金又は出資金	50,000,000円
■ 事業の内容又は職業	廃棄物処理・清掃業務会社経営
■ 関係内容	
役員の兼任等	兼任1名
事業上の関係	廃棄物処理・清掃業務契約
■ 取引の内容	校内廃棄物処理及び清掃委託(注1)
■ 取引金額	18,817,040円

(注1) 業務委託費については市場価格を勘案して一般的な取引条件と同様に決定している。

貸借対照表

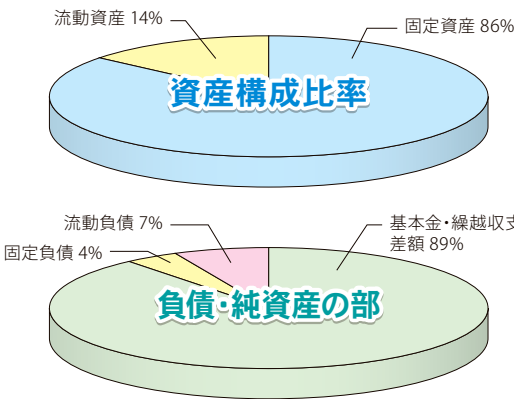
令和2年3月31日現在

(単位:円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減(▲)
固定資産	7,904,134,495	7,751,941,202	152,193,293
有形固定資産	7,789,988,552	7,658,910,398	131,078,154
土地	3,165,261,343	3,165,261,343	0
建物	3,819,787,332	3,619,533,058	200,254,274
構築物	222,306,636	227,226,449	▲4,919,813
教育研究用機器備品	271,719,825	297,281,613	▲25,561,788
管理用機器備品	34,803,086	28,310,989	6,492,097
図書	250,075,899	248,792,746	1,283,153
車輛	26,034,431	33,784,200	▲7,749,769
建設仮勘定	0	38,720,000	▲38,720,000
特定資産	68,151,189	51,976,448	16,174,741
退職給与引当特定預金	67,900,878	45,337,470	22,563,408
クラブ活動特定預金	250,311	6,638,978	▲6,388,667
その他の固定資産	45,994,754	41,054,356	4,940,398
電話加入権	1,963,507	1,963,507	0
保険積立金	21,121,887	16,278,879	4,843,008
出資金	50,000	0	50,000
敷金	1,384,000	1,279,000	105,000
貸付金	21,269,000	21,269,000	0
その他預託金	206,360	263,970	▲57,610
流動資産	1,238,740,263	1,211,332,443	27,407,820
現金預金	1,096,333,001	1,122,178,533	▲25,845,532
未収入金	101,878,724	78,901,049	22,977,675
有価証券	724,431	724,238	193
前払金	14,224,808	6,928,598	7,296,210
仮払金	25,579,299	2,600,025	22,979,274
資産の部合計	9,142,874,758	8,963,273,645	179,601,113

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減(▲)
固定負債	411,400,378	263,034,178	148,366,200
長期借入金	205,701,000	53,500,000	152,201,000
退職給与引当金	67,900,878	45,337,470	22,563,408
長期未払金	137,798,500	164,196,708	▲26,398,208
流動負債	617,087,336	552,124,301	64,963,035
短期借入金	45,966,000	42,932,000	3,034,000
未払金	31,685,897	30,907,069	778,828
前受金	152,650,000	152,064,500	585,500
預り金	386,785,439	326,220,732	60,564,707
負債の部合計	1,028,487,714	815,158,479	213,329,235

純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減(▲)
基本金	12,598,782,676	12,463,726,674	135,056,002
第1号基本金	12,412,782,676	12,277,726,674	135,056,002
第4号基本金	186,000,000	186,000,000	0
繰越収支差額	▲4,484,395,632	▲4,315,611,508	▲168,784,124
翌年度繰越収支差額	▲4,484,395,632	▲4,315,611,508	▲168,784,124
純資産の部合計	8,114,387,044	8,148,115,166	▲33,728,122
負債及び純資産の部合計	9,142,874,758	8,963,273,645	179,601,113



令和2年度貸借対照表

育英大学 育英短期大学 だより

学生数

大学 教育学部	387人
短期大学	
保育学科	407人
現代コミュニケーション学科	153人

新たな挑戦の年に



育英大学・育英短期大学

学長 石井 學

新型コロナウイルスで十分な学習機会が作れず苦難の1年でしたが、無事新年を迎えることが出来ましたこと、心よりお祝い申し上げます。

育英大学は完成年度を迎え、3月に第1回卒業生を社会に送り出すことが出来ることとなりました。振り返りますと、6年前に学長として育英短期大学に着任し、直ちに四年制大学設置に向け準備を開始し、2ヶ年の審査を経て文部科学省より新設の許可がおりました。

厳しい審査の連続でしたが、無事第1回卒業生を社会に送り出すことが出来ますことに感動を覚えます。

育英大学は教育学部教育学科の単科大学で、児童教育・スポーツ教育の2専攻の構成となつています。教育学科は①実践力を高めるための継続的な実習②きめこまやかな少人数教育、③就職に向

けたダブルスクーリング、④進路に合わせたキャリア支援を重点的にを行い、⑤教育者としての道徳心を持った人材の育成を行っていきます。

児童教育専攻には「学校教育コース」と「幼児教育コース」があります。「学校教育コース」では35人学級移行のための即戦力となる教員の養成を目指しています。本年度は教員採用試験で8名、公立保育所採用試験で2名の合格者を出しており、来年度は2倍以上の合格者を出すよう努力します。スポーツ教育専攻では、2022年から、小学校の体育に教科担任制が導入されることが決定されており、小学校教員の道も開かれ新たな期待が生まれています。

また、教育学部では、育英短期大学と提携して、科目等履修生制度を活用することにより、児童教育専攻では小学校教員免許状と中学校英語の教員免許状の取得が、ス

ポーツ教育専攻では、中学校保健体育と英語の教員免許状の取得ができることが特色です。

育英短期大学は1993年の全国の短大全体での入学者数が254,953人をピークに2021年は43,132人と激減しており、極めて厳しい状況におかれています。今後短期大学が生き残る道は、新たな受験生の開拓にあると思います。失われた20年とか、ロストジェネレーションと呼ばれる就職氷河期世代に教育の場を提供し、資格等の取得の道を開発します。保育学科は、人材不足の保育者の養成のために、6時限、土曜開講等により、仕事を継続しながらの資格取得を考えています。

現代コミュニケーション学科は、新たにeスポーツコースを2022年度より開設します。デジタル社会に対応して、コンピュータの仕組みを学び、プログラムがどのように動くかを理解し、コーチング技術を身に付けることを目的とするものです。社会人の再教育に最適と考え、積極的にPRしていきます。

今年の学生募集で育英大学は入学定員をすでに確保しましたが、育英短期大学は残念ながら、定員割れが予測されます。次年度に向かつて教職員一体となって頑張ります。

今後は教育力を一層高め、地域が求める人材の育成に挑戦し、勝ち残りたいと思います。皆様方の一層のご支援を賜りますようお願い致します。

短期大学学科だより



保育学科長
松本 尚

コロナに負けない保育者の未来に向かつて

新年あけましておめでとうございます。昨年中は長く続くコロナ禍の影響で授業・実習・様々な大学での行事など思うように進まず辛い一年でした。短大は二年間で即戦力の保育者を養成し、社会に出て



現代コミュニケーション学科長
泉水 清志

現代コミュニケーション学科の教育について

新年あけましておめでとうございます。日頃より地域や皆様方のご支援に対し、大変感謝いたします。今年度も新型コロナウイルス感染症のため、分散登校によつて授業を実施していましたが、11月下旬より全員による対面授業を実施し、新入生80名に加え、二年生は少しの期間になりますが入学前に思い描いていた学生生活有

通用する人材育成が何より大切です。しかし、コロナによる影響は大きく、予定されていた大切な実習など延期となり、学生一人一人に重くのし掛かる状況となつてしまいました。何事も「苦あれば楽あり」などと申しますが、今年卒業する二年生においては保育現場で楽しく働いて行けたらと願っています。また、在学生では全面対面授業が開始され、新年度に向かつて大きく羽ばたいてほしいと願います。今後のコロナの状況を見据えつつ未来に向かつて保育者養成に尽力できるような教職員一同邁進していきたいと思ひます。今後とも皆さまからのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

意義に過しております。

コロナ禍では、多くのことが制限されています。ただ、その中でも「できること」を見つけ、「やる」ために工夫し続けることが大学教育では必要であり、学生はその経験を今後の社会生活に生かすことができると考えます。現代コミュニケーション学科は、現代のデジタル社会に対応するため、令和4年度よりeスポーツコースを新設するなど、社会の変化に合わせて必要とされる人材を養成していきます。前橋育英高校との連携・接続をさらに進め、育英大学とも協力しながら、群馬育英学園の発展のために学科教員一同努力していきたいと思ひます。今後とも変わらぬ皆様方のご支援・ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

大学専攻だより

— 完成年度を迎えた育英大学 —



教育学部専攻長
児童教育専攻長
新井保幸

児童教育専攻の4年生27名は、小学校教員採用試験合格者延べ8名、公立保育士合格者2名、教職大学院進学者6名を含め、全員が卒業して就職ないし進学できる見込みです。思い返せば、開設年度の入学生は定員の半分にすぎず、翌年度も定員充足には至らず御心配をおかけしましたが、その後は定員を安定的に確保できるようになり、現在に至っています。

謹んで新年のお慶びを申し上げます。
さて、本学は今年度、いわゆる完成年度を迎え、1年から4年までの全学年が揃いました。9月にはウエブ形式で行われた文部科学省による設置状況履行調査も無事に終了したところです。

1期生61名は今年度、教育実習や保育実習に取り組みましたが、大過なく終了することができ、安堵しています。また、本学学生の退学率の低さ(2.6%)は特筆に値するもので、きめ細かな少人数教育が成果を上げ、学生の満足度の高さを示しています。



スポーツ専攻長
朝岡正雄

新年明けましておめでとうございます。

皆様の温かいご支援を賜り、令和3年4月には、スポーツ教育専攻に定員を超える58名の1年生が入学しました。しかし本年も新型コロナウイルスの流行は収まらず、前期・後期ともに分散授業を行わざるをえない状況が続いています。10月下旬には学内集団接種も含めて、大学内のワクチン接種者が七割強

本学開設時に着任した高齢教員は今年度末をもって退職することになり、その結果、専任教員のかなりが入れ替わることになりました。令和4年度から本学は言わば第2期に入ることになりますが、若返った教員諸氏が山積する課題と取り組み、本学の進路を切り拓いてくれるものと確信しています。これまでの4年間に賜りました御支援・御高配に対し感謝の意を表するとともに、引き続き育英大学への御指導・御鞭撻をお願い致しまして御挨拶とする次第です。

に達し、順調に教育活動を継続しています。

このような状況の中で、4年生は教育実習・教員・公務員・企業等の採用試験が終わって新たな進路に向かって歩みはじめ、3年生は3月の教員・公務員採用試験対策講座を皮切りに就職対策に取り組んでおり、2年生は介護等体験実習、1年生は近隣の中学・高校において教職体験実習を行うなど、各自の夢の実現に向かって学修を積み重ねています。

さらに令和4年度入試も順調に推移し、この4月には入学定員を上回る数の5期生が入学してくる予定ですので、引き続き皆様のご支援、ご指導のほどをお願い申し上げます。

令和2年度後期・令和3年度前期の成績優秀者奨学金の授与

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度後期の成績優秀者及び令和3年度前期の成績優秀者に奨学金授与式を執り行うことができず個別に手渡しで行いました。奨学金は、半期授業料の半額相当です。
成績優秀奨学生は、以下のとおりです。

■令和2年度 後期

成績優秀奨学生

教育学部教育学科

児童教育専攻

1年 澤田 愛莉
2年 五十嵐 ひなた
3年 東林 彩未

スポーツ教育専攻

1年 大沢 夏未
2年 下野 佑実
3年 須藤 千聖

短期大学

保育学科

1年

篠崎 亜美・新井 菜月
大熊 七葉・茂木 光

現代コミュニケーション学科

1年

小林真陽留・高草木葉音

■令和3年度 前期

成績優秀奨学生

教育学部教育学科

児童教育専攻

1年 人見 莉珠
2年 澤田 愛莉
3年 平岡 れん

スポーツ教育専攻

1年 石坂 麻結
2年 振旗 優斗
3年 下野 佑実

※4年生は選考中

短期大学

保育学科

1年

稲垣 美咲・酒井 みゆ
川上 聖奈・須田 めい

2年

篠崎 亜美・佐藤 真希
山岸あかり・岩丸 芽生

現代コミュニケーション学科

1年

関沼かりん・塩川 若菜

2年

高草木葉音・津久井 雅

クラブ活動の主な成績

本学の学生が本年度に活躍した主な成績は次のとおりです。

①陸上競技部

第98回箱根駅伝競走(1/3)

・諸星 颯大(大学・スポーツ教育・3年)
関東学生連合チームで出場、10区23.0km
タイム1時間9分12秒、区間5位相当

日本グランプリシリーズ2021

水戸国際陸上(5/5)

・小林 拓己(大学・スポーツ教育・2年)
男子棒高跳・6位

第100回関東学生陸上競技

対校選手権大会(5/20/23)

・山本 竜也(大学・スポーツ教育・2年)
男子棒高跳・優勝

・小林 拓己(大学・スポーツ教育・2年)
男子棒高跳・2位

・第37回U20日本陸上競技選手権大会(6/26)
高橋 陸人(大学・スポーツ教育・1年)
男子棒高跳・3位

・第94回関東陸上競技選手権大会(8/20/22)
小林 拓己(大学・スポーツ教育・2年)
男子棒高跳・優勝

・齋藤 優羽(大学・スポーツ教育・2年)
女子走高跳・3位

・第32回関東学生新人
陸上競技選手権大会(9/10/12)
齋藤 優羽(大学・スポーツ教育・2年)
女子走高跳・2位

・世界レスリング選手権オスロ大会(10/5)
櫻井 つぐみ(大学・スポーツ教育・2年)
女子55kg級・優勝

・2021年クイーンズカップ(4/10/11)
五味 音々(大学・スポーツ教育・1年)
女子53kg級・2位

・櫻井 つぐみ(大学・スポーツ教育・2年)
女子55kg級・優勝

・嶋田 英莉(大学・児童教育・2年)
女子55kg級・2位

・下野 佑実(大学・スポーツ教育・3年)
女子55kg級・3位

・元木 咲良(大学・スポーツ教育・2年)
女子57kg級・優勝

・石井 亜海(大学・スポーツ教育・1年)
女子65kg級・優勝

・平井 かえで(大学・児童教育・1年)
女子68kg級・3位

・2021年明治杯全日本選抜選手権(5/27/30)
櫻井 つぐみ(大学・スポーツ教育・2年)
女子55kg級・優勝

・元木 咲良(大学・スポーツ教育・2年)
女子57kg級・2位

・下野 佑実(大学・スポーツ教育・3年)
女子55kg級・3位

・元木 咲良(大学・スポーツ教育・2年)
女子57kg級・優勝

・石井 亜海(大学・スポーツ教育・1年)
女子65kg級・優勝

・平井 かえで(大学・児童教育・1年)
女子68kg級・3位

・2021年東日本春季学生選手権(6/23/25)
○新人戦の部

・増田 壮兼(大学・スポーツ教育・1年)
男子グレコローマン55kg級・3位

・太田 楓輝(大学・スポーツ教育・2年)
男子グレコローマン63kg級・3位

・喜多 康介(大学・児童教育・2年)
男子グレコローマン72kg級・3位

・柳生 達哉(大学・スポーツ教育・2年)
男子フリースタイル70kg級・3位

○女子の部

・宮原 乙葉(大学・スポーツ教育・3年)
女子50kg級・優勝

・下野 佑実(大学・スポーツ教育・3年)
女子53kg級・優勝

・櫻井 つぐみ(大学・スポーツ教育・2年)
女子57kg級・優勝

・元木 咲良(大学・スポーツ教育・2年)
女子59kg級・優勝

○選手権の部

・原田 真吾(大学・スポーツ教育・3年)
男子グレコローマン72kg級・優勝

・大原 和也(大学・児童教育・3年)
男子フリースタイル92kg級・優勝

・2021年全日本大学
グレコローマン選手権(10/9/10)
原田 真吾(大学・スポーツ教育・3年)
男子77kg級・3位

・2021年全日本学生選手権(11/4/5)
櫻井 はなの(大学・児童教育・1年)
女子50kg級・3位

・下野 佑実(大学・スポーツ教育・3年)
女子53kg級・2位

・五味 音々(大学・スポーツ教育・1年)
女子53kg級・3位

・嶋田 英莉(大学・児童教育・2年)
女子55kg級・3位

・平井 かえで(大学・児童教育・1年)
女子65kg級・3位

・塩沢 和(大学・スポーツ教育・3年)
女子72kg級・3位

・太田 楓輝(大学・スポーツ教育・2年)
男子グレコローマン67kg級・3位

・原田 真吾(大学・スポーツ教育・3年)
男子グレコローマン72kg級・3位

・大原 和也(大学・児童教育・3年)
男子フリースタイル92kg級・3位

・2021年東日本秋季学生選手権(11/23/25)
○新人戦の部

・増田 壮兼(大学・スポーツ教育・1年)
男子グレコローマン55kg級・3位

・高杉 大輝(大学・スポーツ教育・2年)
男子グレコローマン55kg級・3位

・庄司 秀(大学・スポーツ教育・3年)
男子グレコローマン55kg級・優勝

・2021年天皇杯全日本選手権(12/16/19)
櫻井 つぐみ(大学・スポーツ教育・2年)
女子57kg級・優勝

・石井 亜海(大学・スポーツ教育・1年)
女子68kg級・2位

○選手権の部

・第12回全国6人制バレーボールリーグ
総合男女優勝大会関東地域リーグ
順位決定トーナメント・3位

・2021年度群馬県
大学バレーボールリーグ戦・優勝

・第94回日本学生氷上競技
選手権大会(12/25/29)
今井 美結短大・現代コミュニケーション学科1年
女子フィギュアスケート3級・4位

・2021年度群馬県
大学バレーボールリーグ戦・優勝

・2021年度群馬県
大学バレーボールリーグ戦・優勝

・2021年度群馬県
大学バレーボールリーグ戦・優勝

・2021年度群馬県
大学バレーボールリーグ戦・優勝

・2021年度群馬県
大学バレーボールリーグ戦・優勝

・2021年度群馬県
大学バレーボールリーグ戦・優勝

・2021年度群馬県
大学バレーボールリーグ戦・優勝

・2021年度群馬県
大学バレーボールリーグ戦・優勝

・2021年度群馬県
大学バレーボールリーグ戦・優勝

・2021年度群馬県
大学バレーボールリーグ戦・優勝

・2021年度群馬県
大学バレーボールリーグ戦・優勝

市内私立大学・短期大学連携事例発表会

本学では、高崎市が主催する『市内私立大学・短期大学連携事例発表会』産学官連携・地域貢献活動による地域振興を目指して、に参加しています。



この発表会には、高崎市内の6校の私立大学・短期大学が参加し、地域が抱える身近な課題に、大学と企業等が共同で取り組む産学連携を促進させるもので、学生が地域貢献活動や新たなビジネスアイデアの展開を研究し、例年2月に発表しています。

令和3年2月は、高崎健康福祉大学で行われ、本学から次の3プログラムが参加しました。

①子育て支援サロンとの連携に向けた取り組み
～学生ボランティアに関するアンケート調査より～

■発表者

保育学科

■指導教員

2年 石川 紋乃・星野 楓愛

■発表者

保育学科

■指導教員

坂口 淳子 准教授

②(一社)安中市観光機構との連携事例
『「廃線ウォーク」における親子連れ対象ツアーガイド』

■発表者

現代コミュニケーション学科

■指導教員

1年 小林 真菜・原田 舞子

■発表者

現代コミュニケーション学科

■指導教員

泉水 清志 教授

③コロナ禍の子育て支援の探求
～命をテーマにした絵本の読み聞かせを通して～

■発表者

教育学部 児童教育専攻

■発表者

2年 近藤 桜・黒田 紘奈・村田 茉那美

■指導教員

教育学部 児童教育専攻

渡辺 一洋 准教授

桔梗祭

2021

大学祭実行委員長(大学)

前嶋 郁美

大学祭実行委員長(短大)

林 愛由花

今年のテーマは「Be the best」文化祭盛り上げて育英」です。新型コロナウイルスの影響で様々なイベント



行事が延期や中止となったため、学生全員が盛り上げられるような大学祭にしようという意味を込めて、今回このテーマに決定しました。

今年の桔梗祭は昨年同様、新型コロナウイルス感染予防対策として、群馬県のガイドラインに基づき、マスク着用や受付



時の検温、消毒、参加者管理などの徹底や開催日の短縮を行うなど最大限の感染予防の取り組みを行い実施しました。ステージ発表では、サークル



や部活動・有志による発表を行いました。

ステージ企画では、男装女装・タサコデ始めカラオケ大会など計4つの企画を行いました。ステージ企画では、当日飛び入り参加の企画など、観客も一緒に楽しめるよう工夫しました。

また、新たな試みとしてYouTube生配信を行い、来場することのできない方にも参加

してもらえる機会が作れたと思います。

今年度についても実行委員が丸となり大きなトラブルも無く終えることが出来ました。不慣れな点もありましたが、私達にとつて貴重な経験となりました。開催にあたり、ご担当の先生方をはじめとしたサポート、協力を得て、大学祭を成功させることができました。新型コロナウイルスの感染が一日も早く終息し、来年も更に皆様が楽しめる大学祭になることを心より願っています。



公開講座

本学では、地域連携推進事業の一環として公開講座を実施しており、地域の皆様の生涯学習の一助となればと考えています。

令和3年度は、コロナ禍のため、オンラインで動画配信により実施しました。

■11月25日(木) 10時～30日(火) 20時

■演題「道徳なき時代の道徳性とは?」人類の進化から考える道徳性の本質」

■講師 鍾水浩(育英大学教育学部スポーツ教育専攻教授)

■対象者 教員、一般成人

■後援 高崎市、高崎市教育委員会

育英短期大学幼児教育研究所
リカレント講座

本研究所では、幼児教育・保育に携わる方々を対象にした「リカレント講座」を実施しており、少しでも地域に貢献できればと考えています。

令和3年度は、コロナ禍のため、オンラインで動画配信により実施しました。

■10月30日(土) 9時～31日(日) 23時

■演題「一人ひとりがみんなたいせつ」子どもによりそう保育者へのメッセージ」

■講師 師/くすのきしげのり先生(絵本作家)

■対象者 保育関係者及びび学生

育英リレーコラム

子どもの遊びの重要性と保育者の役割

教育学部児童教育専攻

准教授 望月 文代



現代社会は、社会環境の変化に伴い、子どもを取り巻く環境も多様化してきており、子どもの遊びも大きく変化してきています。以前は友達と一緒に戸外で駆け回るような遊びが主流でしたが、現代では、家の中の一人遊び(ゲーム等)が増加傾向にあります。その結果、子どもの体力や運動能力の低下、コミュニケーション不足が問題になっています。

乳幼児期の子どもの多くのことが、幼稚園・保育所・認定こども園等で過ごしますが、園生活は遊びが中心です。子どもにとっての遊びは生活そのものであり、遊ぶことが仕事です。遊びを通して、子どもたちは様々なことを

学び、経験を積み重ねていきます。その経験の中で、子ども達は自らの命を守るための対処能力も身に付けていきます。

保育者は危険な場所や場面に遭遇した際に、その都度、子どもに伝え、日常的・重点的に安全指導を行っていく必要があります。その際、保育者が安全を確保しすぎるが故に、子どもの発達上、必要な危険も取り除いてしまうことがないように配慮する必要があります。理由として、子どもは、小さな危険を経験することで、大きな危険を予測することが出来る様になり、危険を回避する力が養われるからです。このことを保育者は念頭におき、子どもの遊びに関わっていくことが重要です。

以上のことを踏まえ、本学、教育学部教育学科児童教育専攻幼児教育コースでは、子どもの遊びの重要性を理解し、保育実践を行うことのできる幼稚園教諭・保育士の養成に取り組んでいます。

飛翔会だより

令和3年度定期総会(書面総会)

令和3年度の定期総会は、コロナ禍の影響で、6月7日から21日にかけて昨年に引き続き、書面により開催しました。

総会では、令和2年度事業報告、決算報告、会計監査報告、令和3年度新役員の選出、令和3年度事業計画案、予算案を審議いただき、原案どおり承認され、実習・就職活動、学生会活動、クラブ活動、学園祭、図書購入、コロナ対策、教育環境整備等に支援することとなりました。

その後の支部会についても役員の皆様に意見を伺い実施見合わせとなつております。

また、飛翔会の大きな行事である桔梗祭(学園祭)での「青空市場」も在学生だけの開催となったため、中止となってしまいました。

その後、コロナの感染状況が落ち着いてきたことから12月16日(木)には本学の第2食堂で本部役員会を開催することができ、本学の取組の現況や今後の事業の進め方などを審議いただきました。

このような状況下ではありますが、新型コロナウイルス対策をはじめ、学生の教育諸活動・就職活動の支援に尽力していきたいと思っておりますので、今後とも皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

後援会だより

令和3年度定期総会(書面総会)

令和3年度の定期総会は、新型コロナウイルス感染症の影響で、6月9日から30日にかけて昨年に引き続き書面による総会とさせていただきます。

総会では、令和2年度事業報告、決算報告、会計監査報告、令和3年度新役員の改選、令和3年度事業計画案、予算案を審議いただき、原案どおり承認され、指定強化クラブや地域活動クラブ、学園祭、教育環境整備等に支援することとなりました。

また、事業費については、大学の指定強化クラブ(陸上部、レスリング部、バレーボール部)、地域活動で活躍している和太鼓部、ハワイアン部に対して支援を厚くするとともに、新設された第2食堂のテーブル購入に支援しました。

これからも後援会としてできる限りの支援をしていきたいと思っておりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

桔梗会だより

令和3年度定期総会(書面総会)

新型コロナウイルスによる感染症の全国的な拡大が続いた影響で、今年度の桔梗会総会は昨年度に引き続き書面での総会開催といたしました。

6月に開催された書面総会では、書面表決の形で同窓会活動等の内容について審議され、決定されました。

今年度の主な事業においては、卒業生謝恩会経費補助、卒業生への記念品贈呈、桔梗祭カミングキャンパスデイへの

特別補助等の事業に加え、コロナ対策への環境整備支援として「新型コロナウイルス対策支援補助」事業が承認されました。この事業については、必要な環境整備費用に充てていただくため20万円を本学園に寄付しましたことを報告いたします。

これらの事業を通し、桔梗会として在校生、卒業生への支援を深めると共に、育英大学・育英短期大学発展のため尽力していきたいと思っております。

今後とも皆様方のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

2021年世界レスリング選手権大会優勝者を祝勝



大学を支援する三団体(飛翔会、後援会、桔梗会)は、10月上旬にノルウェーのオスロで開催された世界レスリング選手権大会の女子55kg級で優勝という素晴らしい成績を修め、金メダルを獲得した教育学部スポーツ教育専攻2年の櫻井つぐみ選手に御祝金を贈呈しました。

育英高校だより

生徒数

普通科 1,367人

保育科 185人

新年のお祝い申し上げます。



前橋育英高等学校

校長 金子 雅人

昨年は、年明け早々から新型コロナウイルス感染が拡大し第三波となり、ゴールデンウィークの始まりから第四波。そして、夏休みを挟んで過去最大の感染拡大を招いて第五波となりました。この間、緊急事態宣言とまん延防止等重点措置の発令で国民の行動は、感染状況に応じて、制限されましたが、コロナワクチンの接種率向上により、9月以降次第に感染者数や重症化率が減少しました。

本校にとって、感染状況に応じた活動制限はあるものの最低限の学習活動や部活動を何とか実施できました。前年度卒業生である第五十六期生は、コロナ禍にあって国立公立大学に五十六名、私立大学に四百三十八名の進学実績を出しました。今年度の部活動では、夏のインターハイに七クラブが出場し、硬式野球部は、五大会連続六

度目の夏の甲子園に出場しました。年末年始の全国大会は、男子サッカー部が二年ぶり二十四回目の第百回高校選手権大会に女子サッカー部も八年連続八回目の出場を決めて、さらに男子バスケットボール部は、十二回連続十六回目のウィンターカップ出場を決めました。特に昨年中止となった、秋の修学旅行I期(Ⅰ・Ⅲ・保育)は、無事に実施する事が出来ました。

今年の入学生から全国一斉に高校のカリキュラムが変更されるのを切っ掛けに、本校としても新たな取り組みで、今まで以上に魅力ある学校にしたいと考えています。最後に新型コロナウイルス「オミクロン株」の感染拡大が心配されています。私たちの生活は、マスク・換気・手洗いとまだまだ「新しい生活様式」を意識した日々が続きますが、第一に「命」を守ること。その

ためにも感染予防を前提とした学校運営に努めますので、今年もよろしく申し上げます。

学監挨拶



学監 山田 耕介

新年明けましておめでとうございます。コロナウイルス感染拡大から2年が経過し、制限と緩和を繰り返しながら、日々の生活を送っています。今年こそは、通常の生活が、取り戻せることを願う初詣に参ります。



副校長 幸 義 幸 神山

新春の御祝いを申し上げます。

落ち着いてきたとはいえず、まだまだコロナウイルス感染症の終息が見通せない中ですが、2学年主任の寄稿にもあるように、高校現場では2年生の修学旅行が無事に予定通り実施されました。このままコロナが終息し、以前のような高校の現場が一刻も早く戻ることを祈るばかりです。

教頭挨拶



教頭 上原 敏広

新春慶賀、本年もよろしくお祝い申し上げます。さて、昨年もコロナが依然として蔓延り、世の中を不安定にしておりました。マスク着用は当たり前、多人数で行う集まりなどは慎重に実施したり、取りやめを余儀なくされたりしておりました。



事務長 武田 雅彦

本年も宜しくお祝い申し上げます。

さて、新型コロナウイルスは昨年とは形が変わりましたが、相変わらず猛威をふるっています。一説によると、ウイルスと人間は太古の昔から共存してきたとのこと。人間に害毒を及ぼす全てのウイルスを絶滅させることは困難

自がみなすべきことにひとむきに取り組み、高校生活を豊かなものにすべく奮闘いたしました。各部活動の活躍や難関大学への合格などはその代表的なものだと思っています。他の記事をご覧ください。故人となられた某政治家が請われると色紙によく揮毫していた言葉「着々寸進、洋々万里」が思い出されました。生徒たちの頑張りや恥じぬよう、私たち大人もひたむきに着実に歩みを進めていきたいものです。良い手本、良い指導ができますよう精進してまいります。ご教導ください。

だそうです。

非常に残念なことですが、人間の側が考え方を換え、ウイルスとの共存の道を選ぶしかありません。感染拡大に繋がるような身勝手な行動を慎み、他者の迷惑にならない行動を選択する。まさに各国で取組が行われているSDGsの考え方にも繋がっている気がします。

年頭にあたり、あらためて自己の行動を見直し、責務を果たしていきたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

第100回全国高校 サッカー選手権大会出場

男子サッカー部

部長 櫻井 勉



今年も昨年同様、新型コロナウイルス感染症への感染防止策を徹底する中でこの大会への参加となりました。本大会の出場に向けて限られた条件の中で部活動を行い日々練習を重ね、厳しい県予選を突破しこの選手権大会出場を自分自身やチームとしての自信や誇りとして、応援していただいた保護者や学校関係者への感謝の気持ちを一つ一つのプレーに込め、最高のパフォーマンスを大会において発揮して前橋育英高校のサッカー部のひたむきなプレーが、全国の皆さんの暗い気持ちを吹き飛ばし元気や勇気を少しでも伝えることが出来ればと思ひ大会に



臨みました。結果は1回戦草津東4-0、2回戦三重6-0、3回戦鹿島学園には終了間際に逆転ゴール、2-1、準々決勝大津0-1とベスト8での敗退となりました。今年のチームは三年生が中心となり素晴らしいチームを築き上げてくれました。次のステージでの活躍を期待しています。最後になりましたが、今大会の参加にあたり、多大なるご支援・ご尽力を賜りました、すべての関係の皆様深く感謝申し上げます。

全日本高等学校女子 サッカー選手権大会出場

女子サッカー部

監督 松原 真智子

全日本高等学校女子サッカー選手権大会に際しまして、たくさんの方々からの熱い応援、そして、多大なるご支援・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。



一回戦で関西第一代表である日ノ本学園高校と対戦し、後半十分先制点を許してしまい、その後なかなか点が入らず試合終了。一点差で敗れ、まさかの初戦敗退。このチームで一日でも長く試合がしたかった。今までに味わったことのない悔しさ、敗戦。あまりにも短かった。今年のチームは、関東七位で全国大会の切符を掴みましたが、関西チャンピオンと堂々の闘いぶりであった。選手は、この一年あらゆることを犠牲にして、コロナ禍の中練習に励み、すべてをかけて本当によく闘ってくれました。日ノ本学園高校に果敢に攻める姿は、大きな成長が見られ、見ている人に感動を与え、本当に強く逞しく見えしました。最後まで諦めず闘ってくれた選手に心より感謝しております。本当にありがとうございます。また、コロナ禍の中、感染症対策を重ね、試合ができたこと

を本当に嬉しく思います。これから始まる新たなステージでの活躍を期待しています。最後になりますが、保護者の皆様、遠い神戸の地まで応援にきてくださり本当にありがとうございます。この場をお借りして心より感謝申し上げます。そして、これからも女子サッカー部は、精進してまいりますので、変わらぬ応援宜しくお願い致します。

ウィンターカップ

2021出場

男子バスケットボール部

監督 加賀谷 寿

今年度も昨年度同様にコロナウイルス感染予防対策の中、ウィンターカップが開催されました。

一回戦は鳥取城北との対戦でした。試合の入りが少し良くなかったのですが、ディフェンスを頑張り全員出場で勝利することが出来ました。二回戦は京都東山との対戦で今大会のヤマ場の試合でした。

昨年度からの留学生がいないチーム状況でしたがサイズがあり下馬評では東山という見方でした。試合は選手がチームとしてやるべきことを遂行してくれ、下馬評を覆す内容で見事に勝利しました。この試合は観ている人がバスケットボールの醍醐味



を感じる事が出来た試合でありました。

三回戦は福島東稜との対戦で我々が一つの目標であるメインコートまであと一つの試合でした。出だしから緊迫したゲーム展開で進みましたが終盤、福島東稜の留学生に得点を決められ敗戦になりました。目標までもう少しでしたが選手は前橋育英のプレイスタイルをしっかりと示してくれたと思います。本当にありがとうございます。

最後に学校関係者、保護者の方々、卒業生、卒業生の保護者の方々、応援ありがとうございました。

これからもバスケットボール部を宜しくお願い致します。

二年ぶりの夏

硬式野球部

部長 中沢 洋一

二年ぶりの開催となった夏の甲子園。選手たちが「一心」をスローガンに、昨年の三年生の想いとともに勝ち取った甲子園です。

今チームは、昨秋、今春の県大会において、自分たちの野球が貫けず、悔しい敗戦を経験していました。春敗戦の日から85日間、選手たちは、もがき苦しみながらも心と体を鍛え上げ、満を持して群馬大会に臨みました。県内の強豪校との対戦で粘り強さを増し、準々決勝で第一シードの関学大附にサヨナラ勝ち、続く準決勝では春コールド負けを喫した太田に完勝。決勝の健大高崎戦は、延長12回の末、六対一の激戦。五大会連続六回目の夏の甲子園出場を決めました。改めて選手たちの成長に驚くとともに、それを支えてくださった多くの方々に感謝申し上げます。

今年の甲子園は、コロナ対策と雨と共にあり、特に雨は強敵でした。試合は当初の予定より六日遅れ、しかも、その日の一・二試合目が順延される中(一回戦がすべて消化されていない)、突然の試合決行連絡、異例の形で行われました。あつという間に終わった感がありますが、それだけ締まった好ゲームでした。投手を中心に無失策。結果は0



対1の惜敗でしたが、選手が元気にハツラツと全力プレーができたことに安堵の気持ちで一杯です。そして、この異例で特別な経験を今後活かすべく、これからも日々、精進します。最後にありますが、今大会出場に際し、多くの皆様より心温まるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。



吹奏楽部

第48回 定期演奏会を終えて

吹奏楽部部長 高柳 萌衣那

昨年度に引き続き今年度の定期演奏会も、ホールへの来場は部員の保護者に限定し、一般の方はオンライン配信からご覧いただきました。

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の発令・延長の影響で、約1カ月の部活動休止となり、宣言解除から定期演奏会までに私たちに与えられた時間は2日でした。できる限りの準備をしましたが、どうしても拭いきれない焦りと不安を抱えつつ当日を迎えました。

しかし開演すると、保護者のみとはいえ、お客さんが楽しそうに演奏を聴いている姿や、苦楽を共にしてきた仲間たちの一生懸命な様子から元気をもらい、終演まで演奏することができ



した。「上手な演奏」とは言いがたかったですが、「最高の演奏」だったと思います。

皆様の応援あつての定期演奏会でした。本当にありがとうございました。

吹奏楽部顧問 深澤 準一

令和3年10月3日(日)、本校吹奏楽部は第48回定期演奏会を開催致しました。当初は9月中旬に開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大と、それに伴う緊急事態宣言が9月末まで延長されたため、日程を変更しての開催となりました。また、当日は感染防止対策のため部員の保護者のみ入場を許可し、その他の方々には昨年同様、ライブ配信という形でご鑑賞いただきました。



夏季休業以降、緊急事態宣言を受けて分散登校となったことで、学校での練習が不可能となり、部員たちは自宅に楽器を持ち帰って個人練習をするしかありませんでした。結局、緊急事態宣言解除後に2日間、全体練習をしただけで本番のステージを迎えることとなりました。

このように困難な状況ではありましたが、部員一人一人が「仲間と一緒に演奏会を成功させたい!」という熱い思いを持ち続けて臨んだ結果、演奏会当日は一体感のある素晴らしい演奏を披露してくれました。

今回の定期演奏会の成功は、きっと部員たちの大きな糧になったと確信しています。

優秀前橋育英生表彰

12月23日(木)



陸上競技部 柳川美空さん

12月23日(木)2学期終業式の前に「優秀前橋育英生」表彰式が行われました。「優秀前橋育英生」は文化・スポーツ等で顕著な成績をおさめた生徒に対し後援会から贈られる制度です。(後援会会則第4条第5項の2に拠る)
今年度は以下の生徒が対象になりました。

陸上競技部	
柳川美空(1年5組)	JOCジュニアオリンピックカップ 第52回U16陸上競技大会
原口顕次朗(1年12組)	JOCジュニアオリンピックカップ 第52回U16陸上競技大会
女子棒高跳 4 m 01 cm	優勝 県高校新記録
放送無線部	
村上龍馬(3年9組)	全国高等学校総合文化祭
紀の国わかやま2021総文	朗読部門 参加
第68回NHK杯全国高校放送コンテスト	朗読部門 出場
星野珠季(3年1組)	山本穂香(2年4組)
第68回NHK杯全国高校放送コンテスト	アナウンス部門 出場
塚越愛子(2年1組)	第68回NHK杯全国高校放送コンテスト
朗読部門 出場	

進路指導部より

進路指導部主任 西岡 良幸

二年連続で新型コロナウイルスによる影響により、学校生活においても大きな変化が見られる状況が続いています。

二学期最初の「進路の日②」は今年度も中止となり、保護者会の協力による職業観育成ワークショップでの貴重な講演を聴く機会を失ってしまいました。今年度のコンセプト「知らないを減らして、知るを増やす」からすると非常に残念な結果でした。しかし、以前より導入していたスタディ・サプリに加え、グーグルクラスの活用や、一年生に導入したクロムブック、ス

タディサプリ・イングリッシュなど新たなものに取り組みはじめ、次の一步を踏み出してまいります。

三年生は受験シーズン真っただ中であり、ウェブ形式による新たな入試形態への対応を求められています。このような中で実施された総合型選抜、学校推薦型選抜では、筑波大学をはじめとする国立大学に13名の生徒が合格しました。また私立大学では、慶應義塾大学や東京理科大学を含む多くの大学に合格しています。

受験生である三年生はもとより、一・二年生も高校生として勉学に励んでいただきたいと思えます。但し、知識のインプットに留まることなく、アウトプット

ト発言・発表・プレゼンテーション等)に対しても苦手意識を払拭出来るように、「総合的な探究」の授業との連動・活用を進めていきたいと考えております。

現代社会において、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力や主体性等が求められています。これらを身につけるためにも、様々な課題に対して、他者の考えに触れ、受容し、自身の価値観と融合・考察出来るような下地作りをしていきたいと考えています。そのためには、保護者をはじめとする多くの方々からのサポートも必要となつて参ります。今後も生徒のために、ご支援並びにご声援を頂けますよう、宜しくお願い致します。

修学旅行I期

二学年主任 深澤 準一

11月9日(火)から11月12日(金)にかけて、第二学年修学旅行I期(九州方面)を実施致しました。コロナ禍が完全には終息していない中での修学旅行ではありましたが、大きく体調を崩す生徒もおらず、感染防止対策を徹底しながら無事に3泊4日の行程を終えることができました。

この学年はコロナ禍の影響で、入学式や新入生遠足、大学見学や体育祭、スキー教室など、あらゆる行事が中止となってきました。そのような中、「この修学旅行だけは何とか成功をさせたい」という教職員や生徒、そして保護者の方々の思いが一つとなったことで、成功裏に終えることができたのだと実感しております。

準備期間が一ヶ月と短く、事前学習も十分とは言えませんでした。しかし、現地での平和学習や観劇、班別行動の様子等を見ていると、生徒一人一人が「修学旅行」の目的を十分に理解し、TPOを弁えて真剣かつ主体的に学び、仲間との絆を深めていたように思います。

マスク越しではありましたが、生徒たちが真剣に学ぶ表情や、仲間と笑顔で対話する様子が多く見られ、改めて開催できたことに感慨無量の思いを抱いております。

修学旅行I期に携わった全ての方に、改めて感謝申し上げます。

